

27日 水曜

申命記

24:14 貧しく困窮している雇い人は、あなたの同胞でも、あなたの地で、あなたの町圏みのうちにいる在留異国人でも、しいたげてはならない。

24:15 彼は貧しく、それに期待をかけているから、彼の賃金は、その日のうちに、日没前に、支払わなければならない。彼があなたのことを主に訴え、あなたがとがめを受けることがないように。

24:16 父親が子どものために殺されてはならない。子どもが父兄のために殺されてはならない。人が殺されるのは、自分の罪のためになければならない。

24:17 在留異国人や、みなしごの権利を侵害してはならない。やもめの着物を質に取ってはならない。

24:18 思い起こしなさい。あなたがエジプトで奴隸であったことを。そしてあなたの神、主が、そこからあなたを贖い出されたことを。だから、私はあなたにこのことをせよと命じる。

24:19 あなたが畑で穀物の刈り入れをして、束の一つを畑に置き忘れたときは、それを取りに戻ってはならない。それは、在留異国人や、みなしご、やもめのものとしなければならない。あなたの神、主が、あなたのすべての手のわざを祝福してくださるためである。

24:20 あなたがオリーブの実を打ち落とすときは、後になってまた枝を打ってはならない。それは、在留異国人や、みなしご、やもめのものとしなければならない。

24:21 ぶどう畑のぶどうを収穫するときは、後になってまたそれを摘み取ってはならない。



Bible Reference
聖書の記述

それは、在留異国人や、みなしご、やもめのものとしなければならない。

24:22 あなたは、自分がエジプトの地で奴隸であったことを思い出しなさい。だから、私はあなたにこのことをせよと命じる。

困窮している人や社会的弱者のための命令です。そのような人々の生活や思いにも心を碎かなければならぬのであり、そのために具体的に主がモーセを通して命じられています。

そこには「エジプトで奴隸であった」という過去を思い出すようにあります。自分も同じであつたということは、また同じになる可能性もあるのです。私たちも、弱い方々のために配慮することが、自分のためでもあったかも知れないと想いに立ちましょう。

穀物やオリーブを収穫するのに、取り残しをあえて放置するのは効率が悪いでしょう。そのようなことを命じられる社会の生産性は上がらないでしょう。しかしその上がらなかつた分は、それを必要としている人のものだと、主は仰せられます。

主はそれが社会に必要であると考えておられるのです。現代でも同じです。生産性や効率を追求しすぎると、人々の心がすさんできます。そのような社会は何年か後には、心の問題から生産性までもが失われてゆくでしょう。すでにそのような現象が見られます。

これは教会でも、家庭でも、職場でも、学校でも同じでしょう。みなが安心して心を通わせるとこに、本当の共同体の姿があるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな想いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

